

緑の架け橋

会報第 15 号

2010年01月15日

第 12 回植林緑化派遣団〔2009年9月22日~26日〕

植林緑化活動は人類生存の大事な事業

~村山富市・元総理も参加し、09秋季補植作業をおこなう~



石嘴山市プロジェクト地にて (09・9・23)

2002年度から開始された中国緑化植林活動は7年目を迎えて、現地から要請されていた村山富市・元日本国総理大臣の参加を得て、2009年9月に秋季補植活動が実施されました。

「IFCC緑の架け橋プロジェクト」として、これまでの「緑の架け橋推進センター」を継続することになった初めての年度の意義ある活動となりました。

名誉団長の村山元総理は、現地での挨拶で「植林緑化活動はその国・地域だけの問題ではない。環境問題の改善は人類生存のための大事な事業である。植林緑化活動はまた、中国と平和と友好のために共生し合う『戦略的互惠関係』の基礎を築く役割を果たさだろう」と挨拶されました。



中寧県プロジェクト地でボランティアの学生たちに囲まれる村山・元総理(09・9・24)



緑の架け橋プロジェクト

中国植林緑化活動協力事業

IFCC 際友好文化センター

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 333 辻ビル 405 TEL. 03-3268-4387 FAX. 03-3268-6079

口座：中央労働金庫市ヶ谷支店（普）0858119 郵便：00130-9-425994

本会報は事業主催（IFCC）の植林プロジェクト特集となります

しっかりと根付いた活動を再確認

金子 哲夫・元衆議院議員

「あの時植えた木々がどんなになっているだろうか。自分の目で見てみたい」と前回（2006年4月）の参加以来思っていたことが、まさかこんなに早く実現するとは思ってもしなかった。しかも今回は、思いがけず村山元総理と同行での派遣団となったことに感謝したいと思う。実は、今回の派遣団には私の元地元秘書も同行させてもらったのだが、感激ひとしお（これまでも何度も訪中経験あり）だったということも付け加えておきたい。

現地での詳しい日程や活動は、すでに記載されているので、私は、今回の訪中で気づいたいくつかを報告してみたい。

何といっても大きな驚きは、3年ぶりに訪れた寧夏回族自治区の発展振りである。例えば、宿泊先のホテルである。前回と同じような旧市街地のホテルだと思っていたが、マイクロバスが到着したホテルは、周りに店はもちろん住宅も何もない（といっても公園風には整備されているが）場所に、会議場を備えた豪華で広大施設向として全く新しく建設されたものであった。確かに3年前に訪れた時にも、市街地を拡張する工事がいたるところで行われてはいたが、全く新しい市街地が次々と誕生しているのにはただただ驚きの一言である。しかもそれが、区都の銀川市のみならず、石嘴山市でも、中寧県周辺でも見ることができたのである。まさに中国の発展や恐るべしという感じである。

2001年1月に当時の社民党土井党首と一緒に訪中した時、「中国は、沿岸部こそ発展しているが、西部地域は本当に遅れているのです」といわれたことを思い出すが、今や中国全土でのインフラ整備が、急速に進み、それが寧夏にも及んでいるということを実感させられた。

そんな発展状況は、けっして街づくりだけではなかった。私たちが協力して進めている植林活動にもそのことが、はっきりと現れていたように思う。残念ながら今回の活動では、前回植林を行った地を訪れることはできず、その後の様子を見ることはできなかったが、今回訪れた三箇所では、植林にもっとも必要な水を供給するための設備が、かなり整備されていたということである。周りを見渡しても人家一軒すら見ることのできない広大な荒地の中に、給水用のビニールホースをいたるところで見ることができたからである。それはまた、中国が如何に植林活動に力を入れているかを物語る風景といつてよいのではないと思う。

そうしたことを考えると、私たちの活動は、そのほんの一部かもしれないが、しっかりと根付く活動であることを再確認した旅だった。



石嘴山市で佐竹・北京在日本国大使館参事官らと(09・9・24)

中寧県プロジェクト地の補植活動の様相 (09・9・24)



プロジェクト名	事業実施期間	植林面積	遂行状況
寧夏紅寺堡生態緑化プロジェクト	2002年度～2004年度	330ヘクタール	完了
寧夏・日中青年平羅県生態緑化林事業	2004年度～2006年度	290ヘクタール	完了
日中青年寧夏中衛生態緑化モデル林プロジェクト	2005年度～2007年度	300ヘクタール	完了
日中青年銀川生態緑化林事業	2007年度～2009年度	180ヘクタール	2年目までで105ha終了
日中青年石嘴山生態緑化林事業	2007年度～2009年度	250ヘクタール	2年目までで116ha終了
寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業	2009年度～2011年度	300ヘクタール	1年目100ha終了

【2008年度活動報告】

2008年度(2008年11月～2009年11月)は、「IFCC緑の架け橋プロジェクト」として世話会をつくり、植林緑化活動の継続を進めてきた初年度となりました。同プロジェクトの会長として引き続き佐藤晴男さんに就いていただきました。

事業としては、新規「寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業」(100ヘクタール、123,000本)の開工式、「日中青年銀川生態緑化林事業」(60ヘクタール、118,500本)、「日中青年石嘴山緑化林事業」(66ヘクタール、97,000本)、のそれぞれ2年目の植林を行ってきました。

派遣団は継続して第11回(8人参加)を4月、第12回(12人参加)を9月に実施。2009年秋季の補植活動(第12回緑化派遣団)では、懸案であった「村山元総理大臣」の参加が実現し、寧夏回族自治区の関係者の大歓迎を受けました。

会報は2009年1月に12号、同年7月に13号を発行。

2008年度から「IFCC緑の架け橋プロジェクト」へと移行し、協賛金を呼び掛けてきましたが、これまでの会費制と異なり、大幅に賛同者が減少してしまいました。あらためて趣旨を呼び掛け、協賛を募っていききたいと思います。

【2008年度収支報告】(実績08年11月15日～09年11月30日)

収入

支出

費目	予算(円)	実績(円)	摘要	費目	予算(円)	実績(円)	摘要
預かり金		377,748		事務所間借代	240,000	0	240,000未払い
協賛会費		83,000		通信・送料		80,504	60,000未払い
植林協力金		200,000	11回8回、12回12回	事務局費		650,907	
寄付金		150,000	IFCC	事業費		853,220	派遣費補填
助成金①		1,105,571	基金より	印刷代		328,594	会報2回含む
助成金②		683,874	基金より	備品・消耗品		21,342	
会場費		141,000	総会、壮行会	印刷代		1,106,351	一部未払い
借入金		301,335	IFCCより	返済金		0	
雑収入		0		未払金		0	
合計		3,042,528		雑費		1,610	郵便振替手数料
				合計		3,042,528	

【2008年度貸借表】単位・円

貸方				借方		借方の説明	
通帳	0	郵便振替	0	預り金	250,000	立ち上げ資金	
現金	0	助成金	0	印刷代	799,158	中寧	166,029
						石嘴山	422,319
						銀川	210,810
				未払い金	300,000	事務所代、通信費など	
				借入金	301,335	IFCC	
							1,650,493

貸方－借方＝△1,650,493円

【NOTE】

- ①「センター」解散に伴う引き継ぎは、預かり金で処理。引き継ぎ負債のうち、立ち上げ資金のみ、未処理残。
- ②IFCC事業として、継続したが、協賛会費の大幅な減となり収入に影響した。

【今後のIFCC緑の架け橋プロジェクトによる活動計画】

I. 植林緑化派遣団の実施

第13回	2010年4月9日(金)～13日(火)
	寧夏中寧県日中青年生態緑化モデル林事業 2年目
	日中青年石嘴山生態緑化林事業 3年目・最終年度
	日中青年銀川生態緑化林事業 3年目・最終年度
第14回	2010年10月中旬予定
	石嘴山、銀川、中寧における補植活動

II. 会報の発行

※会報「緑の架け橋」は年2回発行する。

Ⅲ. 協賛呼びかけ

協賛会員を呼びかけ、登録をしていく。協賛金の目安は個人一口×3000円、団体一口×30,000円で済ませる。

Ⅲ. 植林協力金の要請

植林活動参加者1人の植林協力金を10,000円として要請する。

【2009年度 プロジェクトの事業計画】(2009年11月～2010年10月)

区分	寧夏中寧県日中青年石嘴山生態緑化モデル林事業		日中青年石嘴山生態緑化林事業		日中青年銀川生態緑化林事業		摘要
	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	事業経費(千円)	内容	
植林	13,814	123000本(100ha)	5,485	90300本(66ha)	12,078	144,000本(75ha)	苗木購入、植え付けなど
保育	1,890	灌水・農薬散布・施肥等	4,221	除草・施肥・農薬散布等	3,579	除草・施肥・農薬散布等	灌水・施肥・農薬散布、獣害防除
機材調達	700	農薬散布器、トラ、肥料等	2,614	消火器、肥料等	813	消火器、肥料等	造林用作業具、農薬散布機等
基盤整備	1,400	灌漑設備等	6,440	灌漑設備等	4,022	灌漑設備等	灌漑水路整備
事務経費	850	通信・印刷等	124	通信・印刷等	650	通信・印刷等	
技術者派遣	700	派遣旅費等	280	派遣旅費等	700	派遣旅費等	
その他	1,028	測量計画費等	6,440	技術指導等	1,154	測量計画設計費	助成経費以外の経費
合計	20,382(内、助成14,000)		21,346(内、助成14,800)		22,996(内、助成14,900)		

第12回植林緑化派遣団(2009年9月22日～26日)活動報告

報告：自治青森県本部 赤平泰衛

第12回の派遣団は、村山富市元総理(IFCC顧問)を名誉団長に11名が参加し、石嘴山市、銀川市、中寧県の視察および植林を行ってきた。今回12回目の派遣にして村山元総理が初めて参加されたこともあり、各地で熱烈な歓迎を受けるとともに中国寧夏自治区における植林緑化活動が日中協力事業にとどまらず、日中友好の架け橋となっている事を肌で実感することができた。

9月21日(月)事前学習会および結団・壮行式

麹町「ホテルポール麹町」で事前学習会が開催され、村山元総理の出席に少々緊張ぎみである。鎌田事務局長から、これまでの生態緑化事業の概要並びに現在進行中の植林計画・現地環境状況の説明を受け、中国における砂漠地帯の植林緑化事業が果たしてきた役割等について理解を深めた。



国家林業局で孫副局長らと会談後

9月22日(火)成田出発。北京へ到着

派遣団は成田空港から北京へ出発し、約3時間のフライトで北京国際空港に到着した。バスから道路両サイドに植えら

れているポプラ・ヤナギ・槐樹(エンジュ)の木々を眺めながら国家林業局へ向かう。林業局では孫副局長はじめ政府関係者の歓迎を受けた。孫副局長は「国家プロジェクトとして砂漠化防止のため、森林率を高めてきた。森林率は中国建国時の8.6%から18.2%となった。これまでのご支援に感謝するとともにさらに植林緑化を推進していく」と述べられ、中国国民にとって脅威となっている環境問題を解決していく強い意志が感じ取れた。



中青連・王曉主席と

その後、IFCCプロジェクトのカウンターパートである中華全国青年連合会を表敬訪問し歓迎夕食会に出席。夕食会では王曉主席が「母なる河を守る行動をIFCCの皆さんと共に中日両国植林事業のモデル事業として推進していきたい」と述べられ、彼らの指導力によって着実に成し遂げられている当プロジェクトに対する熱い思いが伝わった。この席には、在北京日本国大使館から片山和之・経済公使、佐竹健次・経済部参事官に列席いただいた。なお、佐竹健次・参事官は翌日から寧夏回族自治区の植林地へ同行された。

9月23日(水) 北京空港から銀川へ、石嘴山、銀川の視察および植林

晴天。朝7時にホテルを出発し、北京空港から国内線で寧夏自治区の中心市銀川へ。寧夏は東西北三面が砂漠に囲まれている自治区である。海拔1100mから1300mの高地のため、空気が乾燥し1日の温暖の差が大きい、今日の昼の温度は26度。半袖シャツで快適である。



石嘴山プロジェクトで小学生らと植林

総延長5,464Kmに及ぶ黄河(母なる河)から人工湖を造り、農地に灌漑利用している。小麦、米、甜菜、西瓜、葡萄、林檎、梨、とうもろこし、ナツメ、クコが採れ、中国でも上位に位置する羊の毛皮の産地でもある。そんな話を聞きながら、専用バスに揺られ1時間半で寧夏自治区の北部に位置する石嘴山へ到着した。石嘴山は中国有数の石炭基地のひとつであったが、石炭資源が枯渇してきている。石炭採掘・精錬業だけに頼る生活から経済林による収穫を得るなど農牧業主體に移行してきている。

石嘴山市関係者との昼食会後、プロジェクト2年目の石嘴山生態緑化植林の現場へ。予定時間を大幅に遅れたにもかかわらず、市関係者・市民・小・中学生300人余りの熱烈な歓迎を受ける。植林は、道路に面した土地にポプラ・槐樹(景観林)を植える作業。学生たちが木を支え、派遣団は土をかぶせ水を撒く作業。石ころが混ざった砂地ではあるが風に吹かれることもなく、あっという間に用意されていた植林が終了。相変わらず村山元総理の周りには小学生が取り囲み、中国における人気の高さを伺い知ることとなる。2010年までに180haの植林を予定しており、地元の中青連や市民・学生の方々が、灌水、剪定と施肥、病虫害の駆除を担い、専任の管理員が巡回パトロール等に当たっている。大変なご苦労に頭が下がる思いだ。



銀川プロジェクトの植林跡

後ろ髪を引かれる思いで、次のプロジェクト2年目の銀川生態緑化植林の現場へ向かう。この地は黄土高原に位置し、砂漠化によって風沙被害や洪水による浸食で土地が貧弱である。山岳地帯の水土流失が著しいこの地にコノテガシワ(ヒノキ科)、槐樹(エンジュ)、ナツメなどを植林している。灌水パイプが敷かれ緑に覆われているが、防護柵の向こう側はまばらに雑草が生えているだけの広大な砂漠地帯であることが判る。この雑草は自然に生えたものではなく、土質改良のために種を撒いて人工的に生やしているものだ。地道に少しずつ砂地を土に変え緑化していくために気の遠くなるよう作業が続けられている。

17時半を過ぎ、銀川市へ向かう。村山名誉団長と寧夏回族自治区共産党委員会の陳建国書記(日本の都道府県知事職にあたる)が会談。村山名誉団長は「植林緑化活動はその国・地域だけの問題ではない。環境問題の改善は人類生存のための大事な事業である。平和と友好のために共生し合う『戦略的互惠関係』の基礎を築くために植林緑化活動がその役割を果たせることがとができればありがたい」と述べられた。その後、自治区関係者との夕食歓迎会。



寧夏回族自治区・陳建国共産党書記との会見を終えて

9月24日(木) 中寧県生態緑化植林モデル事業の現地視察および植林

晴天。朝8時半にホテルを出発し、今年からスタートした中寧県生態緑化植林モデル事業地の視察および植林に向かう。約2時間で中寧県モデル事業の現場へ到着。ここでも中学生200人余りが整然と

立ち並ぶ中、歓迎を受けるとともにこれまでの植林緑化活動の足跡をパネル展示してある。今年からスタートした植林事業面積は1期100ha、3年間で300ha、トータルで39万本植える計画だと担当者から説明がされた。地元の小・中学生とともに景観林である槐樹（エンジュ）、ポプラを植えた。地元住民による社会的ボランティアを実施するとともに、学生に対する植林教育・環境教育にも力を入れている。事業地では、経済林として林檎やナツメなどを植林し、収穫した果実によって収入の一



中寧県プロジェクトで補植作業



4月植樹された中寧県の模様（09・9・24）

助としている。灌漑農地で実った小ぶりのりんご・洋梨、ナツメ、ぶどうを頂くが、どれもとても甘く色々な果物の栽培に適していると思われる。

寧夏では、漢族などと雑居しながらもイスラム式の生活（食習慣で豚肉は食べない、お酒は飲まない等）を行い、要所にモスクが建てられている。バスの窓から見えるのは、回族（寧夏では約2割の少数民族）の定住住宅。中国政府は回族の移民政策を実施しており、砂漠化防止の策として放牧地草原を再生するため牧草を栽

培するとともに、遊牧民であった彼らに対し放牧を全面的に禁止している。そのため、集合住宅（1棟5千元、日本円で8万円）と農地を与え定住生活をすすめている。

9月25日（金）銀川から北京へ、北京市内見学

晴天。朝8時半にホテルを出発。約2時間のフライトで北京到着。北京の空は寧夏の青空とは明らかに違うガスがかかった状態である。10月1日の国慶節を目前に、中国建国60周年を祝う旗が道路両サイドを装飾していた。天安門・故宮を見学し、夕食は団員相互に植林緑化活動の感想を述べあいながら交流を深めた。

9月26日（土）北京から日本へ帰国

天気は雨模様。北京空港へ移動し日本へと帰国した。天候に恵まれた今回の植林緑化活動は、村山元総理の同行で「緑と平和の使節団」としての役割を十二分に発揮し、非常に意義深い派遣となった。小淵基金によって2002年からスタートした日中共同の植林緑化プロジェクトは、協力関係を築く過程の中でお互いの理解を深め、年を重ねる毎に生態環境の改善に貢献できていることを実感した。今後も日中が知恵を絞り、長い年月の間科学的に植林地の保育・管理を続けていかなければならない。そのために財政的支援や技術者の育成等、中国における植林緑化活動が中断することのないよう、今後も世代を超えて引き継がなければならない事業である。地球環境を守っていくために日本で、地域で何ができるのか考えるきっかけとなる旅でもあった。

第12回植林緑化派遣団参加者（12名）

No.	氏名	所属・役職	No.	氏名	所属・役職
1	村山 富市	元日本国総理大臣（名誉団長）	7	藤森 寿子	自治労全国一般組合員
2	佐藤 晴男	IFCC 緑の架け橋・代表（団長）	8	大屋 えり子	自治労新潟／新潟県職労
3	金子 哲夫	元・衆議院議員（回顧顧問）	9	小林 孝仁	自治労富山／魚津市職労
4	鎌田 篤則	IFCC 事務局長（団事務局長）	10	岩井 寛明	自治労秋田／秋田県職労
5	大西 繁治	全労済香川県本部理事長	11	赤平 泰衛	自治労青森／平川市職労
6	梶原 信幸	自治労大分／日田市職労	12	田中 毅	（株）華和商事・代表取締役